

⑩ 山間や離島などの暮らしを支える基盤整備

山間地域を多く抱える東三河地域では、既に人口減少が始まっており、過疎化や高齢化が著しいことから、持続可能な地域社会を支える生活基盤の確保が課題である。

また、山間や離島と都市は相互に貢献、共生することで、持続的に発展しているのであり、この地域が持つ観光・産業経済を活かした強いネットワーク形成が重要である。

【山間道路の整備】

山間地域の拠点間や都市とを繋ぎ、日常生活の移動及び救急・消防活動や産業、観光を支える道路を整備するとともに、災害防除や視距改良等の対策により、現道における安全性等の向上を図り、ネットワークを強化していく。



国道 473 号 設楽バイパス

【離島・漁港の整備】

離島を始め、漁村地域の産業の核となっている水産業を持続的に発展させるため、その基盤となる漁港の施設整備や老朽施設の補修を順次進めていく。



一色漁港の浮棧橋

目標

No.	指標	H26 実績	H27~H32 目標値	参考 (将来計画)
43	山間部の暮らし、産業、観光を支える道路の供用延長	0km	約 11km	約 31km (H42)
44	漁港施設の整備	0 施設	6 施設	16 施設 (H42)

⑪ 自然環境の保全、持続可能なエネルギー社会の構築

環境と共生した持続可能な社会の実現に向けて、様々な取組を進めていく必要があり、都市部においては、都市活動が都市を取り巻く自然環境に支えられていることを強く意識し、身近な自然である公園緑地の整備や緑化の推進などの取組を進めていく必要がある。

また、安定的かつ持続可能なエネルギーの確保は必要不可欠であり、地域のエネルギー資源を最大限活用していく観点から、再生可能エネルギーの活用推進や、省エネなどの取組も実施していく必要がある。

【都市公園、緑地等の整備】

都市公園は、都市部の住民にとって最も身近な自然であり、自然環境や生物多様性の保全の他、ヒートアイランド現象の緩和など様々な役割を持ち合わせており、引き続き県営都市公園の整備を進めていくとともに、生物多様性に寄与する県民参加の活動や環境学習などを推進していく。

都市部においては、「あいち森と緑づくり都市緑化推進事業³¹」を促進することにより、既存樹林地等の保全、公共施設や市街地の民有地等において新たな緑地を創出することとし、臨海部においては、交流・憩いの場としての港湾緑地を整備していく。

【湖沼・河川的环境整備】

本県唯一の天然湖沼でありながら水質汚濁が著しい油ヶ淵において、総合的な水環境の改善に取り組んでおり、引き続き「清流ルネッサンスⅡ³²」に基づき植生浄化等の取組を推進していく。

また、河川改修の際には、河川が本来有している多様性に富んだ自然環境を保全・創出するとともに、人が日頃から河川へ足を運んでもらえるよう、魅力があり人に親しみの持てる川づくりを目標に整備を進めていく。



整備前

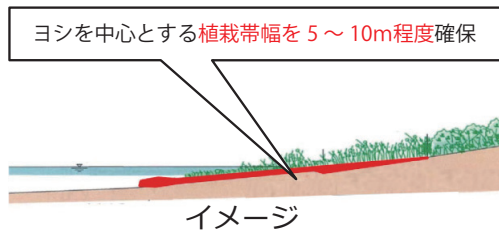


整備後

多自然川づくりによる河川改修

³¹ あいち森と緑づくり都市緑化推進事業：平成21年度より導入した「あいち森と緑づくり税」を財源とした事業のうち、都市の緑の保全・創出を図る事業。

³² 清流ルネッサンスⅡ：(第二期水環境改善緊急行動計画) 総合的な水環境改善に向け、水質を改善し、水環境の改善に伴い、地域住民に潤いや安らぎの空間を提供し、また、生物の良好な生息環境の創出を目指す計画。



油ヶ淵の水質改善のための植生基盤工

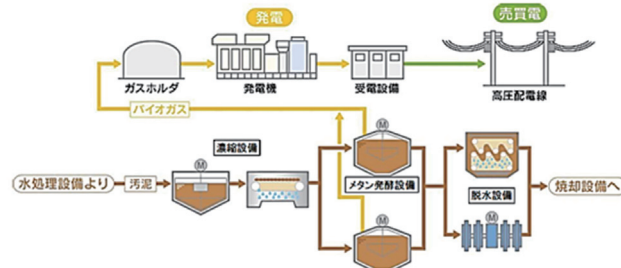
【下水道の整備や海域の覆砂による水質改善】

閉鎖性水域である伊勢湾・三河湾では、水質浄化の対策を進めているものの、依然として富栄養化の進行による赤潮の発生、貧酸素水塊の生成が見られるなど、さらなる水質改善が必要である。このため、下水道の普及啓発活動とともに下水道未整備地域の解消及び高度処理化を進め、陸域から流入する汚濁物質の削減を進めていく。

海域においては、物流・生産といった地域の経済活動を支える開発等で発生した深掘れ跡の埋戻しや干潟・浅場造成、覆砂により、海域環境の改善を図っていく。

【下水汚泥のエネルギー利用】

再生可能エネルギーの活用推進を図るため、豊川流域下水道、矢作川流域下水道などにおいて、下水汚泥のメタン発酵によるガス利用など、バイオマスのエネルギー利用を進めていく。



下水汚泥のバイオガス発電によるエネルギー利用（豊川浄化センター）

【環境に配慮した住宅・建築物の整備促進】

環境に配慮した住宅・建築物の普及啓発と整備促進を進めるため、愛知県建築物環境配慮制度³³の普及を図り、CASBEE あいち³⁴による評価結果を公表することで、県民及び事業者の環境への意識を高め、環境負荷が小さく長く使える住まい・まちづくりを推進していく。

また、建築物のエネルギー消費量を一定以下とするなど省エネルギー性能の高い低炭素建築物や長期優良住宅³⁵の普及促進、再生可能エネルギー利用、建設資材の循環利用など総合的な環境性能に配慮した住宅・建築物を整備することで、環境負荷が小さく長期間にわたり使用できる性能と品質を備えた住まいの供給を促進する。

³³ 愛知県建築物環境配慮制度：一定規模以上の建築物等を新築等する場合に、建築物環境配慮計画書（環境への負荷を低減させるなどの環境配慮措置を示す計画書）を知事（名古屋市を除く）に届け出る制度。

³⁴ CASBEE あいち：省エネや環境負荷、快適性、景観なども含めた建物の環境品質・性能を総合的に評価し格付けするシステム。

³⁵ 長期優良住宅：省エネルギー性能のほか構造体が数世代にわたり使用できること、耐震性が高いこと、維持管理がしやすいことなど長期にわたり良好な状態で使用するための措置が講じられた住宅。

【副次的効果を生む取組】

潜堤設置により遠州灘の砂浜を回復することで、自然環境を保全していく。

目標

No.	指標	H26 実績	H27~H32 目標値	参考 (将来計画)
45	油ヶ淵の水質改善のための植生基盤工の施工	650m	3,300m	(H32 完了)
46	多自然川づくりによる河川改修延長	7.6km	18.7km	-
47	県民一人当たりの都市公園面積	7.60 m ² (H25)	7.9 m ² (H32)	-
48	既存樹林地等の保全や新たな緑地の創出面積	10.7ha	120ha	-
49	下水道普及率（名古屋市除く）	65.4%	72%	-
50	下水汚泥のエネルギー活用施設数	1施設	2施設	-
51	港湾緑地の整備面積	0ha	5.3ha	91.2ha (港湾計画 H33 以降)
52	三河湾の干潟・浅場造成、覆砂	1.6ha	23.3ha	81.3ha (H33 以降)
53	C A S B E E 評価 A ランク以上の届出件数	累計 605 件	累計 1,000 件	-
再掲 (16)	潜堤設置による遠州灘の砂浜の回復・保全 及び面的防護力の向上	18m	102m (1 基)	540m(潜堤 4 基) (海岸保全基本計画 H33 以降)